

様式第4号（第12条関係）

事業者行動報告書

2023年 7月 13日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)

滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)

日本電気硝子株式会社

代表取締役社長 社長執行役員 岸本 暁

(代理人) 能登川事業場長 谷波 正巳

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 第21条第1項
第22条第2項において準用する同条例第21条第1項
の規定に基づき、事業者行動報告書を作成したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称 および代表者の氏名)	日本電気硝子株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 岸本 暁
事業者の住所 (法人にあっては、主たる 事務所の所在地)	滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	日本電気硝子株式会社 能登川事業場					
事業所の所在地	滋賀県東近江市今町906番地					
主たる事業	細分類番号	2	1	1	9	その他のガラス・同製品製造業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を 県内に有する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室 効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を 県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				

2 計画期間および報告対象年度

計画期間	2021	年度	～	2023	年度
報告対象年度	2022	年度			

3 計画の実施状況

計画の実施状況	別添のとおり
---------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

標準様式第2号

(第1面)

1 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の実施状況等

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の実施状況

	取組項目	取組の内容	取組の実施状況
1	運用対策	硝子溶融炉の清澄室保温強化により、エネルギーを削減する。 (160ton-CO ₂ /年削減)	継続して保温強化に取り組んでいます。
2	運用対策	硝子溶融炉のフィーダー適正加熱及びヒーター劣化部材交換により電力量を削減する。(270ton-CO ₂ /年削減)	2021年に実施完了しました。
3	運用対策	硝子溶融炉の流量UPによる生産効率改善により、エネルギーを削減する。 (6ton-CO ₂ /年削減)	2021年に実施完了しました。
4	設備導入対策	変圧器を高効率タイプに更新して、電力量を削減する。 (10ton-CO ₂ /年削減)	2021年に実施完了しました。
5	運用対策	軟水原水送水ポンプを井水直送化により停止させることで電力量を削減する。 (18ton-CO ₂ /年削減)	2021年に実施完了しました。
6	設備導入対策	工場内水銀灯器具をLED器具に交換することで電力量を削減する。 (40ton-CO ₂ /年削減)	継続してLED化を進めています。
7	設備導入対策	厚生会館食堂の蛍光灯をLED器具に交換することで電力量を削減する。 (40ton-CO ₂ /年削減)	継続してLED化を進めています。

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の実施状況

	温室効果ガスの種類	取組の内容	取組の実施状況
1		特になし	
2			
3			

(3) 上記の取組に係る目標の進捗に対する自己評価

二酸化炭素総排出量については、上記の取組みの実施及び生産量減少により前年比約14.3%の削減となりました。原単位については、生産量減少による生産効率悪化で前年比36.5%の悪化となりました。

(第2面)

2 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組の実施状況等

(1) 取組の実施状況

取組の内容	取組の実施状況
<p>① 液晶ディスプレイ用ガラスの生産を通じた省エネ製品に貢献しています。</p> <p>② プラスチック強化用ガラス繊維の生産を通じて自動車の軽量化に寄与しています。</p>	<p>①液晶ディスプレイ用ガラスの生産を継続しています。ガラス基板の薄型化が進み、画面の大きさが同じ場合、ディスプレイ1台に使用されるガラス基板の製造に伴うCO2排出量は減ってきています。</p> <p>②プラスチック強化用ガラス繊維が自動車関連部品に使用され、自動車の軽量化に寄与しています。</p>

(2) 上記の取組に係る目標の進捗に対する自己評価

<p>①ガラス基板の薄型化により、ガラス基板の製造に伴うCO2排出量は減少しています。</p> <p>②ガラス繊維で強化された強化プラスチックは、金属代替として自動車の軽量化、低燃費化により低炭素社会づくりに貢献しています。しかし、強化素材の寄与率の算出は難しいです。</p>
--

(第3面)

3 その他の低炭素社会づくりに向けた取組の実施状況等

	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	取組の実施状況等
1	廃棄物・水の削減	ガラス事業固有の固形廃棄物は社内再利用を徹底することを基本にリサイクルに着目し、製品販売重量に対する中間処理及び埋立処分される固形廃棄物の比率を指標に削減に取り組んでいます。 また、貴重な資源であり、モノ作りのレベルは水の使用量に表れるという考えから、製品販売重量に対する水の量の比率を指標に削減に取り組んでいます。	廃棄物削減を継続実施中 水使用量削減を継続実施中
2	緑化保全	工場林、緑地の整備、保全活動の実施。	継続実施中
3	生物多様性の保全	事業場内にある森林は元来の自然を残して作られたもので、地元鈴鹿山系の潜在自然植生によって、自然林と同様の環境を作り出し、生物多様性の保全に取り組んでいます。	継続実施中
4			
5			
6			
7			
8			